

# 自然観察 NOW

野幌森林公園自然情報

平成26年6月8日 No. 3

北海道ボランティア・レンジャー協議会

## 風よ、ふけ！



フキノトウ

## アキタブキ

春の原っぱににぎわいをもたらしたフキノトウの姿は、すでに見当たらない。雄株のフキノトウはいち早く役割を終えて姿を隠した。雌株のフキノトウは写真のように元気が良かった。青空の中、りんとして立つ雌花のフキノトウは、「風よ、ふけ！」と呼びかけているようだ。そして、風の強い日、綿毛のパラシュートに乗って旅立っていった。森の木々が葉を茂らす前に、沢山の光を浴びて種子を実らせ旅立つは賢い生き方だな。



セイヨウタンポポ



セイヨウタンポポ種子

## セイヨウタンポポ

セイヨウタンポポも見事なパラシュートで旅立つ。今の時期、旅立ち風景がイッパイ見られる。種子には軟着陸できるように工夫も施されている。

## 虫よ、来い！



オオハナウド

## オオハナウド

オオハナウドの花が咲き始めた。花の上を虫たちがつむじ風のように飛び回っている。花には沢山の虫が着陸して歩き回っている。花に潜り込んでいるのもいる。虫たちの楽園みたいだ。

**コンロンソウ**は花の盛りを過ぎていたが、チョウが訪れていた。スジグロシロチョウだ。

植物が多様に進化するにつれて、昆虫たちも多様に進化した。昆虫と植物は生きるためのパートナーである。



コンロンソウ



ミズキの花



シウリザクラ

今の時期の森の中は白い花が多い。昆虫たちは人間と違って白い花をめざとく見つける能力を持っているかもしれません。人間なら赤や黄をめざとく見つけるのだが。

## 動物よ、来い！



ヤブニンジン

ヤブニンジンが実をつけていた。実には沢山の毛がついていて動物の体などにくっついて運ばれる。またの名前はボウジラミ。



カラフトダイコンソウ

観察コースには、カラフトダイコンソウの実も見られる。これもカギ形の毛がついていて動物などに運んでもらうのに都合がいい

## 風よ、ふけ！・虫よ、来い！動物よ、来い！の話

6月4日、野幌の森を歩いた。初夏の森は、エンレイソウなどが一斉に咲き誇る華やかさは影をひそめていた。草木の緑は色合いを一層濃くし、落ち着いた感じだ。その中で、実の散布時期を迎えたセイヨウタンポポと開花しているオオハナウドは、周囲に向けて自己主張をしているように見えた。「風よ、ふけ！虫よ、来い！動物よ、来い」と。フキノトウの行く末を探したが、すでに、その片鱗さえも見当たらない。種子をパラシュートに乗せて旅たった後であった。季節の移ろいの早いこと。

植物は移動することは出来ない。でも、自分の遺伝子を移動する機会を年に二回持っている。一つは、花の時期。花粉は「遺伝子のカプセル」。風や虫などを利用して雌しべに運んでもらう。そして、花粉親になることが出来る。二つ目は、実りの季節。種子は植物の「生命のカプセル」だ。風・流水・雨滴・虫・鳥・その他の動物など、様々なものを利用する。

「風よ、ふけ！虫よ、来い！動物よ、来い」は、たくましく、したたかに生きる植物たちの声であったように思う。



ヒメヘビイチゴ

### ヒメヘビイチゴの話

観察路にヒメヘビイチゴが沢山咲いていた。イチゴの名を持っているが、キジムシロ属の植物である。実はイチゴのように赤く肥大しない。図鑑には、瘦果がまとまってつくところある。花がそっくりなヘビイチゴは、ヘビイチゴ属。実は表面が赤い莓果となる。

ヒメヘビイチゴの花は小さく直径は7ミリほど。ヘビイチゴは直径12ミリ以上と図鑑にあった。



オオウバユリ



オオウバユリの花

### オオウバユリの話

森の中で、ひときわ存在感を示し始めたものにオオウバユリがある。立派に茎立ちしている。7月中旬には立派な花を咲かせる。オオウバユリは典型的な1回繁殖型多年草である。種子から育ったオオウバユリは、6～8年の歳月を経て花茎をたてる。

## 森に入るには、予防策を！

北海道が日本一気温の高い日であった。森の中は虫が多い。顔にまとわりつかれるのには困ってしまった。ネット付きの帽子・手袋着用と対応万端の人がいたが、自分の無防備さに恥じてしまった。

- ・長袖、長ズボン、防虫スプレー、蚊取り線香などの、予防策を！

## 観察会案内

6月22日（日） 北広島レクの森観察会 10:00～12:30

集合・解散：北広島レクの森駐車場